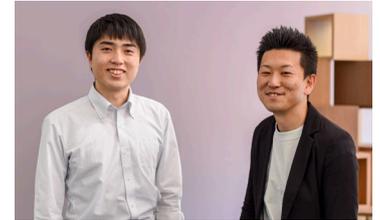


# mipox

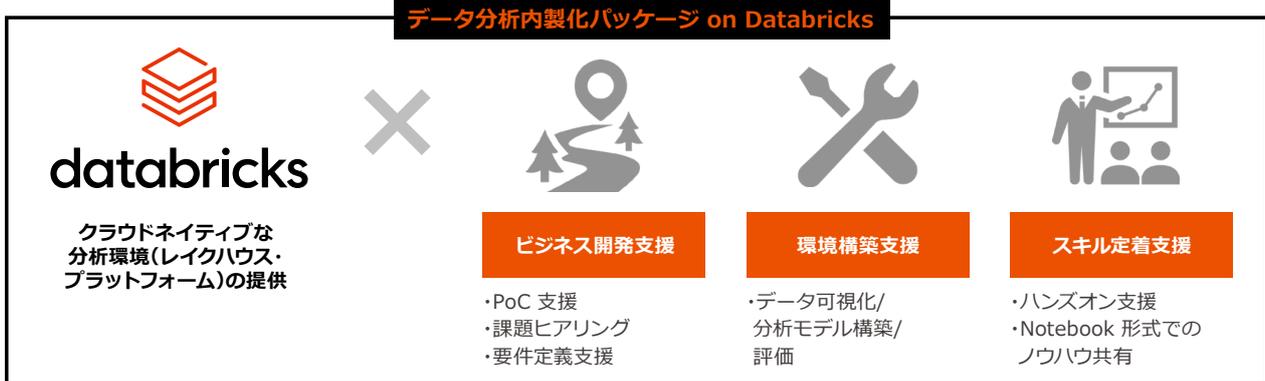
Mipox株式会社は1925年に創業され、研磨フィルムの製造を手がけハードディスクなどの精密研磨市場で世界トップシェアを誇っている。近年、これまで培った技術を自動車製品分野など、汎用的な一般研磨用途にも展開させ、日本に留まらず、世界を舞台に成長を遂げている。「早い変化と多様性に対応できる経営基盤の整備」を方針として掲げており、IT化による、生産性の向上を推進している。



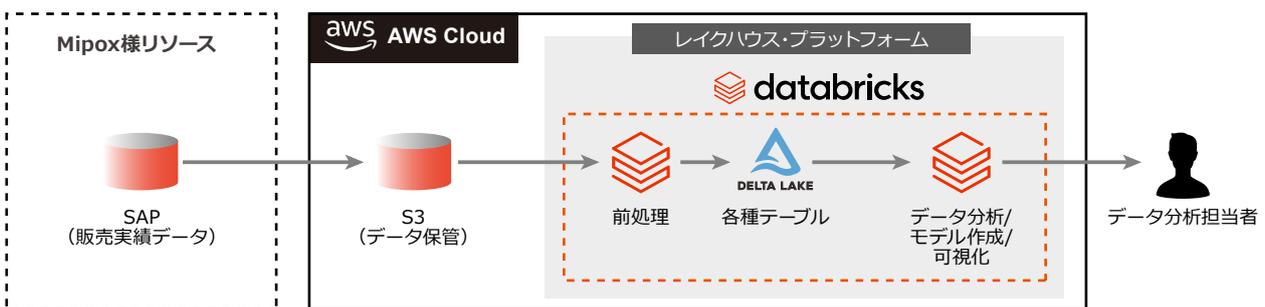
Mipox株式会社  
DX本部 データエンジニアリング課  
(右)平山 瞬氏 (左)磯野 飛鳥氏

## ソリューション

### ナレッジコミュニケーションのデータ分析内製化パッケージ on Databricks による需要予測支援



## アーキテクチャー



## ハイライト

**インフラの構築・保守**  
にかかる  
社内リソースが不要!

**従量課金と**  
**柔軟な拡張性**により  
健全な投資規模で  
処理が可能!

**ナレコム社による**  
**代走・併走・自走**  
アプローチにより  
**内製化**を実現!

## 課題

より高度なデータ分析を行い、需要予測の精度を向上させたい。  
 しかし、データ分析や機械学習、クラウドインフラに詳しい人が少なく、  
 分析環境の構築・運用や分析モデルの構築など、どこから始めればいいのか分からない。

Mipox株式会社ではかねてよりIT化を推進しており、在庫管理にERPシステムを導入、経営資源の可視化に活用してきました。その一方で、販売状況を分析する際にはデータを活用しながらも、営業担当者の経験や勘に基づいて予測を行うことが多いという実情がありました。

また、どこから着手すればより深くより素早くデータからイ

ンサイトを得られるのか、どうデータ人材を育成すれば市場の変化に柔軟に対応できるのか、といった課題もありました。

このような背景から、市場での競争力を維持・構築するためには、最新のIT技術や機能を導入・活用するとともに、機械学習モデルを活用した様々な予測が必要であると考えました。

## 採用理由

将来的にデータ分析業務の内製化を目指すにあたり、分析環境の管理が簡素であること。  
 すばやく実証検証の成果を本番環境で実装できること。  
 データ分析チーム内でナレッジの共有が容易であるため。

これらの課題を同時に解決するためには Databricksの導入が最適であると考えました。既存クラウドリソースとの連携性を考慮し、Amazon Web Servicesに関する知見が豊富なナレッジコミュニケーション社にサポート頂きました。これにより、インフラの管理・保守にかかる作業を最小限に抑えることができました。

また、ナレッジコミュニケーション社はユーザー企業でのデータ分析及びクラウド環境運用の内製化支援に強みを持っており、社内に蓄積されたデータからどのような分析が可能かというコンサルティングから、分析モデルを構築するための各種トレーニングまで、ユーザー企業が自走できるようなプログラムを用意していたことが決め手になりました。

## 今後の展開

まだ活用されていない社内データを使い、データ分析ユースケースを広げていきたい。  
 最終的にはデータ分析の成果物をお客様向けサービスとして展開し、  
 お客様の満足度向上に役立てたい。

社内にはまだ活用できていないデータが数多くあります。将来的には多種多様なデータを統合、分析することで需要予測などのユースケースを実現していきたいです。また、ビジネス上価値が高いと思われるテーマを選定し、データの収集蓄積環境から実装していくようなアプローチも考えています。

例えば、工場で稼働している機器に新たなセンサーを追加し、予知保全や歩留まり向上、製品の品質向上などに活用する、といったテーマです。

将来的には、データ分析をお客様にサービスとして提供す

ることも検討しており、設備のモニタリングサービスや予知保全サービスなど、データ分析を活用してお客様とのタッチポイントを増やし、顧客満足度を向上させていきたいと考えています。

会社のビジネスや課題をよく理解している人でなければできない分析もあるはずです。将来的にはパートナーと協力して、自分たちでデータ利活用をコアにしたビジネスを運営できるような仕組みを作っていきたいと考えています。